

あいち農産物生産流通レポート

2024年6月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 愛知県の食育推進について	(食育消費流通課) 1
◎ 地域トピックス	
・ 待望の黄桃「こまきゴールド」地元産直施設で販売開始	(尾張農林水産事務所) 2
・ JA愛知みなみが花き集出荷貯蔵施設を整備	(東三河農林水産事務所) 3
◎ 東日本情報	
・ 農林水産省が国産野菜シェア奪還プロジェクトを立ち上げました	(東京事務所) 4
◎ 西日本情報	
・ 6次産業化優良事例について	(食育消費流通課) 6
◎ フラワーページ	
・ 「横浜フラワー&ガーデンフェスティバル2024」が開催されました	(東京事務所) 8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の6月の見通し(県内市場)	24

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

愛知県の食育推進について

食育消費流通課

愛知県では、県民一人一人が食の大切さを理解し、主体的に食育に取り組むための指針として「あいち食育いきいきプラン2025」を作成し、県民運動として食育を推進しています。

1 あいちの目指す食育

食を通じて「健康な『体』をつくる」、「豊かな『心』を育む」、「『環境』に優しい暮らしを築く」、「食育を『支える』」の4つの取組を推進し、食育の実践力を高め、健康で活力ある社会の実現を目指します。

取組の展開方法としては、食にかかわる多様な関係者が各々の役割と特性を生かしつつ、お互いに連携・協力して、県民の主体的な食育の取組を実践することとしています。



2 具体的な取組

(1) おうちでごはんの日

愛知県では、「食育の日」である毎月19日を「おうちでごはんの日」とし、早めに帰宅して、家族や友人と一緒に食卓を囲むよう勧めています。



毎月19日は、おうちでごはんの日

「おうちでごはんの日」
ロゴマーク

(2) 食育ネットあいち

県の食育のWebサイト「食育ネットあいち」では、食育に関する情報を発信しています。食育コラム、イベント情報、あいちの郷土料理、食育推進ボランティア、食育パンフレットなど、食育活動に役立つ様々な情報を掲載しています。

※「食育ネットあいち」のページ

URL : <https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/>



(3) 愛知県食育推進ボランティア

お住まいの地域で食育活動を自主的に行っていただく方を「食育推進ボランティア」として登録しています。食に関する講演、人形劇、料理教室等を通して子供から大人を対象に食育の普及啓発活動を実施していただいています。県は、登録ボランティアに対し、研修会の開催、情報提供や活動の橋渡し等の活動支援をしています。

今年度は、「食育推進ボランティア」を6月28日（金）まで募集しています。栄養士や調理師、その他、食育に関する資格や経験等があれば応募できます。知識や経験を活かし、食育推進ボランティアとして活動していただける方の応募をお待ちしております。詳細は、以下のページをご確認ください。



食育推進ボランティア
活動の様子

※「食育推進ボランティア」についてのページ

URL : <https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/support/volunteer.html>



待望の黄桃「こまきゴールド」地元産直施設で販売開始

尾張農林水産事務所

「こまきゴールド」は、6月中下旬の早い時期に収穫できる珍しい黄肉系品種、いわゆる黄桃です。小牧市のモモ生産者が平成24年に白肉系品種「みさか白鳳」から枝変わりを発見し、新品種として令和4年に登録されました。

小牧市では、産地活性化の起爆剤となる「こまきゴールド」のブランド化に取り組んでいます。6月から始まる地元産直施設での販売に至るまでの道のりを一部紹介します。

※「枝変わり」：ある枝だけが突然異なった特徴を持つようになる現象。例：色の異なる果実が着く

1 生産者及び生産量拡大へ

「こまきゴールド」を産地特産として盛り上げるため、令和2年から尾張中央農協が中心となり、市内のモモ生産者へ試食会を行い、品種の魅力を広めました。この結果、「こまきゴールド」を作りたい生産者が集まり、令和3年に「こまきゴールド生産推進協議会」（以下、協議会）が設立されました。協議会が整備した苗木供給制度により、令和6年6月現在、28名の園地に128本の「こまきゴールド」が栽培されています。



「こまきゴールド」

2 品質統一への挑戦

消費者にまた食べたいと思ってもらえる「こまきゴールド」を生産するため、協議会では、消費者が好む食味や外観に対応した栽培マニュアルや出荷基準を作成し、各生産者へ配布し、技術を普及しました。栽培マニュアルには、栽培適地の説明、苗木の植え付け方法や果実にかける袋の種類が細やかに記載されており、黄色に赤みがかかった鮮やかな果皮色と甘い果実を実現するためへのこだわりが詰まっています。



協議会設立総会の様子
(令和3年12月)

3 ブランドイメージの構築

地元産直施設での販売に向けて、協議会では「こまきゴールド」を「産地で愛される唯一無二のモモ」として宣伝するために、オリジナルの販売PRグッズを作成しました。^{のぼり}幟、^{はっぴ}法被に加え、黄桃を想像できる黄金色のロゴを使い、生産者の思いやプレミアム感を伝える化粧箱も完成しています。

産直施設にお立ち寄りの際は家族へのお土産、友達への贈り物や自分への御褒美に手に取っていただくと幸いです。

(※数量限定販売のため数には限りがあります)。



「こまきゴールド」をイメージしたロゴが入った化粧箱

J A愛知みなみが花き集出荷貯蔵施設を整備

東三河農林水産事務所

強い農業づくり総合支援交付金を活用した花き集出荷貯蔵施設の整備が令和4年度から2ヶ年にわたって行われ、田原・赤羽根地区花き総合集出荷貯蔵施設が令和5年5月に竣工、渥美地区花き総合集出荷貯蔵施設が令和6年3月に竣工しました。

1 事業実施の背景及び目的

J A愛知みなみの切り花は、3カ所の集出荷貯蔵施設（花ポート、マムポート、フラワーステーション）を拠点として、輪菊、スプレー菊、ばら、洋花などの集出荷を行ってきました。しかし、近年変化する消費者ニーズへの対応、施設の能力不足による販売機会の逸失が問題となっていました。

そこで、令和4年度から令和5年度にかけて、既存施設の機能強化や集約、施設等の新設や増設によりこれらの問題を解消し、産地の生産力・競争力の強化を図ることとしました。

総事業費は3,596,890千円で、うち補助金（国費）は1,584,077千円です。

2 取組及び効果

(1) 出荷調製作業の省力化

これまではマムポートとして渥美地区のみだった輪菊バラ受け（生産者がJ Aに選別・箱詰め作業を委託）施設を田原・赤羽根地区に新設することで、利用者の出荷調製作業の時間を減らすことができました。

(2) 品質向上

長期冷蔵管理施設を拡充・新設することで、出荷場内での品質低下を抑制し、彼岸、お盆など需要が多い時期でも出荷物が確保できるようになりました。

また、横持ち集荷場（集出荷貯蔵施設に転送するために設けられた一時出荷場所）を14箇所から8箇所に集約することで出荷から冷蔵までの時間が短縮され品質低下を抑制でき、配送効率が向上しました。

(3) 消費者ニーズへの対応

輸出や花束加工などに対応する専用加工場を新設し、特別仕様品に対応でき、多様化する消費者ニーズに応えることができるようになりました。

また、各集出荷貯蔵施設の情報システムを統一することで出荷状況等がリアルタイムに把握でき、効率的な配荷が可能になりました。

3 今後

利用計画に基づいた円滑な運用ができるよう関係機関と連携し支援していきます。



渥美地区の竣工式の様子

農林水産省が国産野菜シェア奪還プロジェクトを立ち上げました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

「国産野菜シェア奪還プロジェクト推進協議会設立シンポジウム」（主催：農林水産省）が2024年4月26日（金）に農林水産省講堂（東京都千代田区霞が関1-2-1 農林水産省7階）で開催されました。シンポジウムでは、プロジェクトの趣旨や進め方、先進的取組の事例紹介が行われましたので、その概要をご紹介します。

1 国産野菜シェア奪還プロジェクトとは

加工・業務用野菜の輸入割合は2005年から約3割という状況が続いています。

農林水産省は国産野菜のシェア拡大を目的として、加工・業務用野菜を中心に実需者ニーズや産地状況の深掘分析や、新たなビジネスチャンスの創出をサポートするための国産野菜シェア奪還プロジェクトを立ち上げることとしました。これに伴い、プロジェクト推進協議会が設立されることとなり、設立シンポジウムでは協議会の会員登録希望者や関心のある方など約280名が参加しました。

2 協議会の趣旨説明と設立宣言

シンポジウムの冒頭、坂本農林水産大臣からプロジェクトの趣旨について下記のとおり説明が行われた後、プロジェクトの立ち上げと協議会の設立が宣言されました。

（概要）

- ・野菜は農業産出額の約4分の1を占めるとともに、ビタミン、ミネラル等の栄養素の重要な供給源であり、健康の維持増進や農業振興の上で重要な役割を果たしている。
- ・食の外部化を背景に野菜の需要が家計消費から加工・業務用にシフトする中で、冷凍野菜やカット野菜等の加工・業務用の3割程度が輸入野菜に席卷されている。
- ・昨年末には食料安全保障強化政策大綱が拡充され、加工・業務用野菜の国産活用への切り替えについて、食料安全保障の強化のための重点対策に位置づけられた。
- ・本日立ち上げる協議会において、国産シェア奪還に向けた課題の洗い出しや生産から販売までのマッチング、国産野菜の需要喚起の取組を後押ししていきたい。



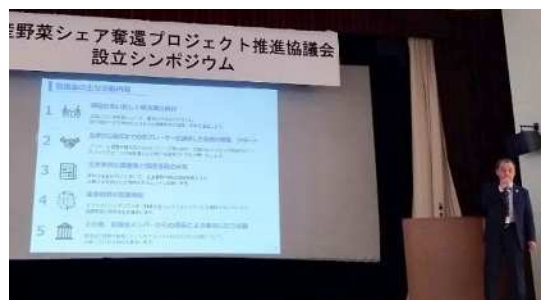
坂本農林水産大臣による設立宣言

3 協議会でのプロジェクトの進め方について

農林水産省農産局園芸作物課の長峰課長よりプロジェクトの当面の進め方について下記のとおり説明が行われました。

（概要）

- ・問題点：シェア奪還の問題点としては、周年安定供給が不十分ということが挙げられる。品目ごとの特性はあるが、周年供給体制、特に国産が品薄になる時期の供給が必要である。



進め方の説明を行う長峰課長

- ・課題：周年安定供給の体制を作るにあたって、プロジェクトではサプライチェーンとの連携が必要になる。生産現場だけで周年供給体制を埋めると言っても、それが需要側に届かないと意味がない。
- ・進め方：①課題の洗い出しと解決策の検討（ニーズの多い品目から実施）、②生産から販売までの各プレイヤーの効果的なマッチングのための連携サポート、③取組を進める中で得られた情報の会員への還元、④国産野菜の需要喚起、⑤会員等の関係者の意見や要望の整理分析、を考えている。
- ・当面のスケジュール：品目別に実需者のニーズをより詳しく収集する作業、ニーズの高い品目の時期・量・品質の分析という段取りを想定している。6月以降にニーズの分析結果について各地で説明会を行い、話し合いの場を作りたい。

4 先進的取組の事例紹介

シンポジウムでは、先進的な取組をされている方々からの事例紹介も行われました。

①「ブロッコリーの生産・加工流通の取組」

(株)アイファーム 代表取締役 池谷伸二

- ・生産開始当初は、生産技術や知識がなく規格外品が多く出たため加工・業務用の出荷を始めた。現在、全体生産量の約4割を加工・業務用として出荷している。
- ・加工・業務用はカットして使用するため、市場出荷規格であるかないかに関わらず全て一定価格で買い取ってくれるが、計画出荷量に対して欠品しないことが必須となる。

②「地域資源・ICT活用低コスト野菜生産モデル」

(有)エーアンドエス 代表取締役 大平貴之

- ・「輸入野菜の上位品目は国内で足りていない」という発想で、自社圃場の栽培条件に合うタマネギ、カボチャ、キャベツを生産している。
- ・2020年度から品質向上と収量増加を目指してスマート技術導入によるデータの集約化と精密作業化に取り組んでいる。

③「スマートフードチェーン ukabis 業務・加工用野菜への活用に向けて」

(一社)スマートフードチェーンプラットフォーム推進機構 代表理事 折笠俊輔

- ・ukabis(ウカビス)は国のコンソーシアムで開発されたもので、イメージとしては農業データ連携基盤WAGRI(ワグリ)のサプライチェーン版であり、食の生産、加工・流通、消費を最適化する新たな情報連携基盤である。現在は実証実験段階である。
- ・地方ネットワーク型の農産物流通を目指したい。

④「国産やさいの生産者と実需者を結ぶマッチングサイト「ベジマチ」について」

(独)農畜産業振興機構 理事 津川貴久

- ・生産者と実需者の商談や情報交換の場として「国産やさいマッチングフェア」を2006年から実施してきたが、新型コロナ感染防止のため、2020年にオンラインによるマッチングサイト「ベジマチ」(VegeMach.jp)を開設した。
- ・2024年4月時点の登録者数は884者(生産者535者、実需者349者)で、商談成立の事例も出ている。

プロジェクト推進協議会では、国産野菜の生産拡大、取扱量の増大、販売促進の強化、DX化による生産・流通・販売の効率化など国産野菜の更なる生産や活用を検討している方や、関係者であれば誰でも参加できるとしています。本県は「愛知県園芸農産課」として協議会に会員登録を行いました。今後、協議会会員との連携を図りながら本県農業の振興をより一層推進することで、国産野菜シェア奪還に貢献していきたいと思っております。

6次産業化優良事例について

食育消費流通課

6次産業化による農林漁業者等の所得向上と農山漁村の雇用確保、地域経済の活性化に向けて、支援を推進してきました。今後は、6次産業化の地域的な広がりや関係者との連携、またオンライン活用への対応等、より一層の幅広い知識等が求められるようになってきています。そのため、農林漁業者等の活動の参考となるように、県内の優良事例を調査しておりますので紹介します。なお、県のWebページ（※1）にも掲載しております。

（※1）<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shokuiku/6jikajirei.html>

【6次産業化優良事例（令和5年度調査）】

農福連携で栽培したトマトを特産品にしたい
公益社団法人犬山市シルバー人材センター（犬山市）

アイメック農法（※2）により、農業未経験のシルバー人材でも高品質なトマトを生産している。

犬山市の特産品を目指して、生産したトマトをブランド化し、「おいしい花子」として販売している。

米の6次産業化（生産・加工・販売）及び農福連携（農業×障害福祉）に取り組んでいる（株）ココトモファーム（犬山市）と共同で直売等をしている。

（※2）水と養分だけを通す特殊フィルムを使用した栽培方法



常滑地域を豚食文化の拠点へ
株式会社知多ピッグ（常滑市）

高度な衛生管理を徹底し、安全・安心の豚肉を生産している。

令和5年度に農山漁村振興交付金を活用して直売所を整備した。さらに現在、加工品、総菜を製造する加工場を整備している。自社豚肉の生産から販売までを一貫して行い、「知多ポーク」の認知度を高め、経営収支の安定化を図り、雇用の増加や地域発展にも貢献していく。



100年後の人類まで届くモノづくり
合同会社 ELEMUS（岡崎市）

三河地域でウルシの苗木を生産している。また、杉やヒノキなどの木粉と漆の樹液を混合した100%バイオマス成形原料「サスティーモ®」を製造・販売している。令和4年度及び5年度にかけて、農山漁村振興交付金を活用して、サスティーモ®の一層の商品開発を行った。

地域や行政、大学や研究機関、民間企業やNPOなどと連携しながら、「植える」「育てる」「加工する」「使う」に取り組み、真の循環型社会を目指していく。



遊休農地等の問題を解決し地域振興に貢献したい

TAIKEI ファーム株式会社（豊田市）
（農園：ストロベリーパークみふね）

観光農園としていちご狩りを行っている他、サツマイモやタマネギの収穫体験、自社農産物（いちご、メロン、サツマイモなど）の直売や加工品の販売、カフェの経営を行っている。

いちご狩り園・カフェはバリアフリーで障がい者や子供に優しい設計。多目的トイレも設置。

6次産業化によりいちごやメロンの廃棄ロスをなくし、多様な雇用の創出、遊休農地の活用を行い、観光農園の新しいビジネスモデルを目指している。



高校生との共同開発で新たなニーズを

愛知県淡水養殖漁業協同組合（北設楽郡）

組合員が生産した絹姫サーモン始め淡水魚類を1日に1トン程度甘露煮等に加工できる施設を有し、加工品を製造販売している。

生産、加工、販売を一元管理し、規格外商品も直営直売コーナーやECサイトで販売している。

また、県立三谷水産高校生と共同で、若者にも興味を持ってもらえる商品開発に取り組み、ミンチ加工して今まで以上に原材料を無駄なく有効活用できる「絹姫サーモディップ」を商品化した。



地球1個分の暮らしを未来に繋ぐ

合同会社渥美どろんこ村（田原市）

田原市の地形や農村資源を取り入れた食農教育・生涯学習活動「スタディファームステイ」を行っている。小学生から大学生まで25年間で通算6,600名以上が参加し、中には就農し独立した参加者もいる。

令和4年度に、農山漁村振興交付金を活用して、教材（絵本ノート、デジタル絵本、動画）及び広報ツールを制作した。今後は地域内の農家等と協働して食農教育・生涯学習活動に取り組むことができる体制を整え、広く全国からの集客に取り組んでいく。



リピーター増の有機 JAS 認証トマト

飯田農園（名古屋市）

有機 JAS 認証を取得し、糖度が高い「miu トマト」の栽培、トマトジュース等への加工、直売所や自販機等での販売を行っている。

SNS発信等により各方面から注目が高まり、売り上げが伸びて生産が追い付かなくなっている。そのため、「miu トマト」を栽培する生産者の輪を広げていく。



「横浜フラワー&ガーデンフェスティバル 2024」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2024年5月3日から6日にかけて、横浜市西区にあるパシフィコ横浜で「横浜フラワー&ガーデンフェスティバル 2024」（主催：横浜フラワー&ガーデンフェスティバル 2024 実行委員会、共催：横浜市）が開催されましたので、その概要を紹介します。

1 初開催の日本最大級の園芸イベント

当フェスティバルは、2027年国際園芸博覧会「GREEN×EXP02027」*の開催を控える横浜市において、日本最大級の園芸イベントとして初開催されました。「すべての園芸ファンのための、花と緑の祭典」とし、最新品種や人気品種の展示、ワークショップ、ステージイベントなどが実施されました。有料イベント（当日入場料 1,800 円）にも関わらず多くの来場者で賑わいました。

※ 日本では1990年の大阪花の万博以来、37年ぶりの開催となる最上位（A1クラス）の国際園芸博覧会。2027年3月19日から9月26日に開催予定。



横浜市長による
開催の挨拶



来場者特典の
オリジナルフラワーバッグ



即売会用のバラ

2 日本ばら切花品評会

日本ばら切花協会による「第66回 日本ばら切花品評会」が開催され、受賞及び出品物が展示されました。本県からも複数出品があり、そのうち、シフォンヴェールが（公社）日本フラワーデザイナー協会理事長賞を受賞しました。

（一社）日本花普及センター会長賞を受賞したシュバルツシュルトは、人気のあるフラワーデザイナーがInstagramで中間色（ニュアンスカラー）のアレンジメントに取り入れたことで注目されるようになった品種です。

そのほか、日持ち性が良く根強い人気のあるスタンダードな剣弁高芯咲き*の品種も多数出品されていました。

※剣のように尖ったような形をしている花卉。



- ① 農林水産大臣賞 群馬県（品種：ビーファイブ）
- ② （公社）日本フラワーデザイナー協会理事長賞 本県（品種：シフォンヴェール）
- ③ （一社）日本花普及センター会長賞 茨城県（品種：シュバルツシュルト）
- ④ 本県（品種：ベイビーカメレオン）

3 横浜ローズセレクション

最新のバラや人気のバラ、インフルエンサーいち推しのバラなど、トレンドのバラを集めた企画展示がされていました。近年、日本で育成された「ポルトブルー」や「シルフィシルフィ」といった青いバラも展示されており、来場者の目を引いていました。



品種：ポルトブルー



品種：シルフィシルフィ

4 2024 世界に誇るアジサイたち

母の日の贈り花として人気のあるアジサイですが、日本で育成したアジサイは海外でも人気であり、代表的な品種から新品種が企画展示されていました。（株）ハクサン（本社：本県）からはPW ブランド*の花序が集合した手まり咲きラグランジアが展示されていました。

※PW（PROVEN WINNERS（プルーフン ウィナーズ））は世界中の20社の企業が参加する植物の国際ブランド。世界各国で選抜された品種をPWブランドとして、グローバルに紹介・販売。日本では（株）ハクサンがPW発足時から参加。



品種：ラグランジア ブライダルシャワー



品種：ラグランジア シャンデリーニ

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：おおば）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛 知 産	前年主要産地 (上位3産地)
2023年実績	288	280 (89%)	2,812	2,828	愛知 (89%) 大分 (8%) 茨城 (2%)
2024年見通し	288	—	2,800	—	茨城 (2%)
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>コロナ禍で低迷した需要は徐々に回復してきたが、少人数での外食が定着しており、需要がコロナ禍前まで回復することは難しい。 産地が計画出荷に努めているため、お盆や年末の需要期に大きな値上がりはないと見込まれ、入荷量及び価格は前年並を予想。</p> <p>【見通し】 入荷量：前年並。(0%) 価 格：前年並。(△0.5%)</p>			<p>コロナ禍以降、安値のため、量販店で扱いやすくなっており、消費者に食べ方を提案し、需要を継続的に喚起して欲しい。 近年の不安定な気象により、品質の維持は難しいと思うが、肥培・圃場管理及び検品を徹底して、品質の維持に努めて欲しい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ハウスみかん）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛 知 産	前年主要産地 (上位3産地)
2023年実績	2,834	324 (11%)	1,071	1,275	佐賀 (71%) 愛知 (11%) 大分 (5%)
2024年見通し	2,800	—	1,080	—	大分 (5%)
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>【概要】 佐賀を中心に愛知、大分が殆どを占める。出荷量の減少傾向は続くも、S玉中心で、ギフト需要期には前年並へと回復する見込み。</p> <p>【見通し】 入荷量：前年並。(△1.2%) 価 格：前年並。(0.8%)</p>			<p>品質的に安定しているハウスみかんは、底堅い需要がある。また、中元商戦やお盆の時期を始めとしたギフト、お祝い品としての引き合いも強い。 愛知県産は、他産地よりも良食味で品質も安定しており、果物専門店や量販店等からの信頼が高い。今後も規格を守り浮皮や着色などに注意して選果して欲しい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し

名古屋中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	2019年	32,300	223	222	209	長野	19%	
	2020年	32,759	249	238	245	愛知	18%	
	2021年	33,945	238	234	212	茨城	12%	
	2022年	32,607	242	247	229	兵庫	6%	
	2023年	31,236	236	241	239	青森	5%	
	5カ年平均	32,569	238	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2024年見通し	31,100	249	—	—			
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	【産地状況】 葉茎菜類及び果菜類の一部の品目で、冬春作の切り上がりが早い見込み。果菜類の夏秋作は3月の天候の影響で出荷が遅れる産地がある見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.4%) 価格：前年をやや上回る。(5.7%)							
だいこん	2019年	1,574	88	86	104	82	青森	65%
	2020年	1,579	111	120	112	108	愛知	15%
	2021年	1,528	113	119	126	99	北海道	12%
	2022年	1,432	120	128	124	114	千葉	2%
	2023年	1,590	96	91	100	102	岐阜	2%
	5カ年平均	1,541	105	108	113	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2024年見通し	1,450	110	120	110	100		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	【産地状況】 愛知の入荷は6月中旬で終了予定。岐阜は中旬から始まる。青森、北海道は3月の低温と資材高騰等の影響で、昨年より減少傾向。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△8.8%) 価格：前年をかなり上回る(14.6%)							
にんじん	2019年	1,746	116	105	123	121	岐阜	40%
	2020年	1,602	199	154	197	262	徳島	13%
	2021年	1,914	132	137	138	121	兵庫	10%
	2022年	1,732	145	128	159	157	青森	9%
	2023年	1,570	145	134	150	154	茨城	9%
	5カ年平均	1,713	146	131	152	161	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2024年見通し	1,400	155	150	155	160		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	【産地状況】 岐阜は例年並でピークは上旬から中旬になる見込み。徳島は上旬で終了見込み。青森、北海道は例年並の見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△10.8%) 価格：前年をかなり上回る。(6.9%)							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	1 2 5, 0 7 7	2 3 8	228	245	242	茨城 16%
	2020年	1 2 5, 3 3 4	2 6 5	262	256	278	千葉 15%
	2021年	1 1 6, 6 7 6	2 6 1	281	264	238	長野 11%
	2022年	1 1 5, 3 4 8	2 6 7	272	277	251	群馬 10%
	2023年	1 1 5, 9 7 7	2 6 6	252	266	284	青森 5%
	5カ年平均	1 1 9, 6 8 2	2 5 9	—	—	—	
	2024年見通し	1 1 6, 0 0 0	2 6 5	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 キャベツは主産地が出荷盛期となる一方、ばれいしょとたまねぎは前月までの天候不順の影響で出回りが少ない。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.0%) 価格：前年並。(△0.4%)						
だいこん	2019年	7, 2 6 6	8 2	69	101	79	青森 59%
	2020年	7, 1 7 2	1 0 3	103	102	104	千葉 17%
	2021年	6, 0 0 2	1 0 8	117	112	96	北海道 16%
	2022年	6, 8 0 2	1 0 5	113	105	96	群馬 3%
	2023年	6, 8 5 5	9 2	80	95	105	神奈川 2%
	5カ年平均	6, 8 1 9	9 8	96	103	96	
	2024年見通し	6, 6 0 0	1 1 0	115	110	105	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 入荷先の主体は青森、千葉、北海道となる。各産地とも生育順調で、出荷開始が計画より若干早くなる可能性がある。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.7%) 価格：前年を大幅に上回る。(19.6%)						
にんじん	2019年	6, 4 7 3	1 2 3	127	125	117	千葉 69%
	2020年	5, 9 2 3	1 7 4	148	157	227	茨城 10%
	2021年	6, 3 7 0	1 2 4	130	124	116	埼玉 8%
	2022年	5, 5 4 7	1 5 4	148	164	151	青森 6%
	2023年	6, 2 5 5	1 4 0	138	139	143	北海道 3%
	5カ年平均	6, 1 1 4	1 4 2	138	141	150	
	2024年見通し	6, 0 0 0	1 5 0	150	150	150	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地状況】 入荷先の主体は千葉となる。千葉は生育順調で中旬に出荷盛期となる。北海道と青森は下旬に出荷開始予定。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△4.1%) 価格：前年をかなり上回る。(7.1%)						

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろくさい	2019年	2, 112	70	67	74	69	長野 84%
	2020年	2, 288	82	111	73	70	茨城 8%
	2021年	2, 317	79	119	75	59	三重 4%
	2022年	2, 137	80	82	79	77	群馬 2%
	2023年	1, 908	76	79	74	76	兵庫 1%
	5カ年平均	2, 152	78	93	75	70	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2, 100	85	90	85	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 長野中心の入荷。上中旬は少なく、下旬より増加の見込み。茨城は切り上がり早い。漬物加工業務の動きは順調と予想。							
【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(10.1%) 価格：前年をかなり上回る。(11.8%)							
キャベツ	2019年	3, 555	86	100	82	80	茨城 47%
	2020年	3, 805	104	104	109	100	愛知 32%
	2021年	4, 416	94	104	90	90	長野 10%
	2022年	3, 961	91	101	91	83	群馬 5%
	2023年	4, 771	89	82	106	123	静岡 1%
	5カ年平均	4, 101	93	98	96	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	4, 400	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 茨城、愛知の切り上がり早い。長野、群馬は下旬から出荷が始まる。今のところ生育は順調で平年並の見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△7.8%) 価格：前年並。(1.1%)							
ほうろそう	2019年	270	560	518	547	641	岐阜 78%
	2020年	264	611	557	602	715	茨城 16%
	2021年	320	559	625	530	538	長野 2%
	2022年	328	543	572	545	532	愛知 2%
	2023年	308	592	527	593	699	静岡 2%
	5カ年平均	298	572	562	562	620	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	300	600	570	600	630	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 岐阜の飛騨地区の作付面積は年々減少傾向。梅雨に入るため、収穫量と品質は不安定な見通し。茨城は中旬から減少の見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.6%) 価格：前年並。(1.4%)							

東京都中央卸売市場

5月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろくさい	2019年	6, 334	57	46	64	62	長野 55%
	2020年	7, 542	69	78	62	67	茨城 26%
	2021年	6, 188	72	90	69	57	群馬 18%
	2022年	6, 087	70	68	76	68	山梨 1%
	2023年	6, 195	65	63	63	69	
	5ヵ年平均 2024年見通し	6, 469 6, 200	67 70	69 75	67 70	65 65	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)				
【産地状況】 入荷先の主体は長野、茨城、群馬となる。 上旬は茨城が終盤となり、下旬は長野が増量する。長野、群馬ともに生育順調。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.1%) 価格：前年をかなり上回る。(7.7%)							
キヤベツ	2019年	16, 644	76	82	71	73	千葉 36%
	2020年	16, 917	90	90	88	92	茨城 29%
	2021年	15, 497	86	87	83	89	群馬 20%
	2022年	16, 718	84	93	88	70	愛知 4%
	2023年	14, 269	95	79	96	113	神奈川 3%
	5ヵ年平均 2024年見通し	16, 009 14, 500	86 95	86 90	85 90	87 105	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)				
【産地状況】 入荷先の主体は千葉、茨城、群馬となる。 中旬以降、千葉は出荷盛期となり、茨城と群馬は出荷量が増加する。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.6%) 価格：前年並。(0.0%)							
ほうろ	2019年	1, 227	450	385	466	512	群馬 37%
	2020年	1, 283	503	475	477	579	茨城 27%
	2021年	1, 406	428	464	400	413	栃木 22%
	2022年	1, 314	469	491	476	440	岩手 4%
	2023年	1, 305	491	398	493	636	岐阜 4%
	5ヵ年平均 2024年見通し	1, 307 1, 300	468 460	444 460	461 450	514 470	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)				
【産地状況】 入荷先の主体は群馬、茨城、栃木となる。 各産地とも生育順調。高温・多湿による病気の発生がなければ出荷は安定する。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.4%) 価格：前年をかなり下回る。(△6.3%)							

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	591	429	445	433	413	大分 28%
	2020年	572	501	488	491	523	茨城 21%
	2021年	585	458	485	463	420	愛知 14%
	2022年	610	479	509	494	441	静岡 10%
	2023年	635	469	477	470	456	中国 5%
	5カ年平均	599	467	481	470	450	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	640	470	480	480	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>【産地状況】 大分は新ネギのピークとなる見込み。愛知、静岡は夏ねぎが出揃い、順調な入荷見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.8%) 価格：前年並。(0.2%)</p>
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>【産地概況】 冬春産地の愛知、宮崎、高知は切り上がり早い見込み。春産地の群馬、長野は平年より少ない見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(11.0%) 価格：前年並。(1.4%)</p>
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>【産地概況】 冬春産地の愛知、宮崎、高知は切り上がり早い見込み。春産地の群馬、長野は平年より少ない見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(11.0%) 価格：前年並。(1.4%)</p>

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	4, 2 2 3	4 2 1	427	439	395	茨城 60%
	2020年	4, 2 7 8	4 6 4	444	444	509	千葉 19%
	2021年	4, 0 3 1	4 1 7	433	426	391	福岡 4%
	2022年	3, 9 2 2	4 7 8	472	508	455	埼玉 3%
	2023年	4, 0 9 1	4 7 8	477	494	465	栃木 3%
	5ヵ年平均 2024年見通し	4, 1 0 9 4, 1 0 0	4 5 1 4 4 0	450 450	461 430	443 440	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は茨城、千葉となる。前月までの天候不順の影響で太物が少ないと見込まれる。中下旬に出荷盛期となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.2%) 価格：前年をかなり下回る。(△7.9%)</p>						
しめじ	2019年	7, 8 9 1	1 1 5	114	117	115	長野 74%
	2020年	8, 5 9 6	1 1 4	144	98	106	群馬 21%
	2021年	8, 0 2 2	1 4 8	220	139	99	岩手 2%
	2022年	7, 5 0 5	1 5 3	167	165	132	茨城 1%
	2023年	8, 2 5 6	1 3 7	158	123	132	千葉 1%
	5ヵ年平均 2024年見通し	8, 0 5 4 8, 1 0 0	1 3 3 1 3 5	160 140	128 130	117 135	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
しめじ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は長野、群馬となる。長野の生育は天候不順の影響で遅れ気味であったが、気温の上昇により例年並に戻る。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.9%) 価格：前年並。(△1.5%)</p>						
きゅうり	2019年	6, 9 1 1	2 6 9	230	306	281	埼玉 25%
	2020年	7, 7 1 5	2 8 2	272	244	344	群馬 24%
	2021年	7, 5 3 4	2 6 6	314	268	212	福島 14%
	2022年	6, 9 0 7	2 2 0	231	234	196	宮城 8%
	2023年	6, 7 2 0	2 8 6	228	292	347	千葉 8%
	5ヵ年平均 2024年見通し	7, 1 5 7 6, 5 0 0	2 6 5 2 9 0	257 300	268 290	276 280	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は埼玉、群馬、福島となる。入荷は、前半は関東産地が中心となり、後半は東北産地が中心となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.3%) 価格：前年並。(1.4%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2019年	1,076	327	318	342	325	熊本 36%
	2020年	1,110	330	306	325	367	愛知 29%
	2021年	880	376	384	394	352	宮崎 26%
	2022年	1,012	332	350	330	318	高知 3%
	2023年	1,004	348	335	353	362	山梨 2%
	5カ年平均	1,016	341	337	347	345	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,000	340	360	350	330		
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 熊本、愛知は6月下旬に出荷終盤となる。3月の長雨により早く切り上がる可能性がある。夏秋作で定植が遅れている産地もあり数量が少なく下旬のピークはない見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.4%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.3%)</p>						
ト	2019年	1,737	213	200	215	229	熊本 38%
	2020年	1,724	224	203	208	275	愛知 25%
	2021年	1,468	265	239	274	300	三重 14%
	2022年	2,207	190	280	317	273	岐阜 14%
	2023年	1,509	264	248	268	285	大分 5%
	5カ年平均	1,729	227	236	259	271	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,530	270	260	290	280		
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 熊本は早い切り上がりが予想される。夏秋産地の定植以降の天候によっては、数量が少なく、価格高の可能性がある。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.4%) 価格：高かった前年をわずかに上回る。(2.3%)</p>						
ミ	2019年	717	441	413	425	506	熊本 57%
	2020年	693	455	409	462	516	愛知 27%
	2021年	664	543	490	559	613	北海道 6%
	2022年	609	590	528	606	658	茨城 4%
	2023年	627	457	431	445	509	和歌山 4%
	5カ年平均	662	495	452	497	558	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	620	500	450	500	500		
ニ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 冬春産地の早い切り上がりが予想される。北海道は3月の低温等により生育負担があり、出荷がやや遅れている。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.1%) 価格：前年をかなり上回る。(9.4%)</p>						

東京都中央卸売市場

5月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
なた	2019年	4, 516	378	374	410	353	高知 29%
	2020年	4, 669	385	352	371	445	群馬 21%
	2021年	4, 417	386	421	395	344	福岡 15%
	2022年	4, 676	342	354	354	319	茨城 8%
	2023年	4, 448	369	351	384	375	熊本 7%
	5ヵ年平均 2024年見通し	4, 545 4, 300	372 400	370 400	382 400	367 400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は高知、群馬、福岡となる。西南暖地から関東産地への移行時期で梅雨の天候次第では不安定な入荷となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.3%) 価格：前年をかなり上回る。(8.4%)</p>						
トマト	2019年	8, 511	253	220	272	277	栃木 22%
	2020年	8, 345	272	251	248	342	熊本 18%
	2021年	7, 249	300	272	315	324	愛知 12%
	2022年	7, 249	334	328	374	308	千葉 11%
	2023年	7, 386	294	272	299	318	茨城 9%
	5ヵ年平均 2024年見通し	7, 748 7, 100	289 310	267 290	299 310	313 330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は栃木、熊本等となる。栃木、熊本、愛知の出荷盛期が過ぎ、北日本産地の出荷が始まる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.9%) 価格：前年をやや上回る。(5.4%)</p>						
ミニトマト	2019年	2, 323	424	382	431	476	熊本 36%
	2020年	2, 333	420	374	413	490	愛知 16%
	2021年	2, 119	508	470	528	539	茨城 14%
	2022年	1, 995	600	542	639	626	千葉 10%
	2023年	2, 269	478	458	476	506	静岡 7%
	5ヵ年平均 2024年見通し	2, 208 2, 200	482 500	442 460	493 510	524 530	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t)				単価(円/Kg)
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は熊本、愛知等となる。各産地とも生育は概ね順調。熊本、愛知は終盤に入る。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.0%) 価格：前年をやや上回る。(4.6%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	548	344	316	341	403	茨城 50%
	2020年	615	459	419	457	466	宮崎 20%
	2021年	621	488	472	550	437	高知 19%
	2022年	612	384	396	382	394	鹿児島 8%
	2023年	560	390	340	407	497	北海道 2%
	5カ年平均	591	415	391	430	439	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	540	400	400	400	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 高知は中旬から減少し、促成産地はほぼ終了となる。茨城の夏秋が中心の販売となる。							
【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.6%) 価格：前年をわずかに上回る。(2.6%)							
ばれいしょ	2019年	2,143	137	120	142	157	長崎 74%
	2020年	2,096	287	271	278	324	静岡 17%
	2021年	2,257	176	220	153	137	熊本 5%
	2022年	2,451	122	135	116	110	北海道 2%
	2023年	1,915	154	149	154	156	愛知 1%
	5カ年平均	172	174	178	167	174	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	000	180	180	180	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 長崎は順調な入荷予想。静岡は上中旬の出荷は安定。3月の低温等により全体的に小玉傾向。							
【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(4.4%) 価格：前年を大幅に上回る。(16.9%)							
たまねぎ	2019年	4,720	76	81	79	71	兵庫 41%
	2020年	4,342	87	85	89	89	愛知 41%
	2021年	5,207	91	96	89	90	北海道 15%
	2022年	4,320	189	191	199	180	ニュージーランド 2%
	2023年	4,272	95	94	101	95	中国 1%
	5カ年平均	572	106	108	110	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	500	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 兵庫は中生中心でL中心の見込み。愛知は中生に切り替わり、ピークを過ぎ月末に向け出荷は減少する。							
【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(4.4%) 価格：前年を大幅に上回る。(16.9%)							

東京都中央卸売市場

5月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	2, 4 4 1	3 7 2	337	377	410	茨城 75%
	2020年	2, 4 8 2	4 9 2	473	505	497	宮崎 9%
	2021年	2, 3 0 9	5 0 5	508	603	412	高知 8%
	2022年	2, 3 4 4	4 2 6	445	453	380	岩手 4%
	2023年	2, 5 0 6	4 3 6	369	446	519	鹿児島 2%
	5ヵ年平均	2, 4 1 6	4 4 6	425	476	445	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2, 5 0 0	4 5 0	460	430	460	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は茨城となる。茨城の生育は天候不順の影響で遅れ気味であったが、気温が上昇し例年並に戻ってきている。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.2%) 価格：前年をやや上回る。(3.2%)</p>					
ばれいしょ	2019年	7, 6 2 1	1 3 8	123	140	157	長崎 59%
	2020年	6, 7 2 0	2 8 2	283	273	293	静岡 17%
	2021年	7, 7 9 6	1 7 8	223	164	140	千葉 8%
	2022年	7, 4 2 5	1 2 1	128	117	118	熊本 7%
	2023年	7, 1 1 7	1 5 3	154	150	156	茨城 6%
	5ヵ年平均	7, 3 3 6	1 7 2	181	167	170	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	6, 7 0 0	2 4 0	240	230	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は長崎、静岡となる。両産地とも3月の降霜が生育に影響して出荷量は少なく、2LよりLが多くなる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△5.9%) 価格：前年を大幅に上回る。(56.9%)</p>					
たまねぎ	2019年	1 1, 2 1 4	7 4	73	71	78	佐賀 43%
	2020年	1 0, 0 4 8	9 5	98	89	99	兵庫 21%
	2021年	9, 1 7 9	1 0 6	108	103	107	香川 10%
	2022年	8, 4 7 8	2 1 0	215	208	206	北海道 8%
	2023年	9, 5 9 6	9 6	93	94	104	栃木 4%
	5ヵ年平均	9, 7 0 3	1 1 3	114	109	115	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	9, 3 0 0	1 0 0	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は佐賀、兵庫等となる。4月から雨が多く、急激な気温変化等の影響もあり、全体的に小玉傾向。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.1%) 価格：前年をやや上回る。(4.2%)</p>					

名古屋市中央卸売市場

※「その他メロン」は「アールスメロン」以外のメロンをいう。

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)
			上旬	中旬	下旬	
果	2019年	6,506	447	438	479	フィリピン 24%
	2020年	6,466	475	476	485	愛知 19%
	2021年	6,667	455	466	451	熊本 8%
	2022年	7,468	457	468	465	ニュージーランド 7%
	2023年	7,225	471	453	462	青森 7%
	5カ年平均	6,866	461	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	6,800	510	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
	すいか、メロンを中心に、いちじくなどが 増量していく。ハウスいちじくは関東へ隔日 出荷となり、中京の入荷量が増える見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△5.9%) 価格：前年をかなり上回る。(8.3%)					
その他メロン (アールスメロン以外)	2019年	750	349	371	349	愛知 36%
	2020年	627	387	383	398	熊本 28%
	2021年	589	391	398	400	茨城 22%
	2022年	695	431	441	429	長崎 7%
	2023年	657	405	425	398	山形 4%
	5カ年平均	664	392	403	394	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	630	430	450	420		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
	【産地状況】 愛知、熊本、茨城などから入荷する。天候 不良により小玉下級品多く、数量は伸びない が、消費も鈍い見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△4.1%) 価格：前年をかなり上回る。(6.2%)					
す	2019年	1,952	228	237	235	愛知 44%
	2020年	2,107	252	267	256	熊本 20%
	2021年	1,803	232	237	229	鳥取 17%
	2022年	2,000	252	284	246	和歌山 9%
	2023年	1,932	238	260	229	石川 7%
	5カ年平均	1,959	241	258	239	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,800	265	300	270		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
	【産地状況】 愛知産ハウスは一週間程度の遅れ。露地物 は順調。下級品が多いが、単価は高い見込 み。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△6.8%) 価格：前年をかなり上回る。(11.3%)					

東京都中央卸売市場

5月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果実	2019年	25,493	483	440	495	511	茨城 19%
	2020年	24,892	526	421	519	574	千葉 15%
	2021年	24,907	501	452	487	561	青森 11%
	2022年	24,311	545	513	567	552	熊本 9%
	2023年	25,271	546	520	552	564	フィリピン 7%
	5ヵ年平均	24,975	520	—	—	—	
	2024年見通し	25,000	550	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 すいか、メロンを中心に入荷する。「シャインマスカット」の出荷が各産地で始まり、生産者の増加による出荷量の増加を見込む。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.1%) 価格：前年並。(0.7%)</p>						
その他メロン (アールスメロン以外)	2019年	4,038	404	418	415	378	茨城 70%
	2020年	3,767	433	430	435	435	千葉 16%
	2021年	3,876	435	427	432	448	熊本 6%
	2022年	3,504	488	510	498	456	山形 4%
	2023年	4,085	431	466	414	408	北海道 1%
	5ヵ年平均	3,854	437	450	439	425	
	2024年見通し	3,800	450	470	450	430	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 茨城を中心にクインシー、アンデスなどが入荷する。各品種は小玉傾向で推移してきたが回復に向かう見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△7.0%) 価格：前年をやや上回る。(4.4%)</p>						
すいか	2019年	8,719	246	258	247	233	千葉 34%
	2020年	9,161	274	275	285	253	茨城 20%
	2021年	8,559	252	248	247	260	熊本 20%
	2022年	9,145	264	289	256	250	鳥取 16%
	2023年	8,973	247	266	238	236	群馬 4%
	5ヵ年平均	8,911	257	267	255	246	
	2024年見通し	8,500	283	300	280	270	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 大玉は千葉、小玉は茨城を中心に入荷する。大玉は天候不順により、生育遅れとなり、小玉傾向と出荷量減を見込む。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△5.3%) 価格：前年をかなり上回る。(14.6%)</p>						

切花・鉢花の6月の見通し

切花（愛知県港花き地方卸売市場 6月2日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2019年	1, 4 7 1	3 8	
		2020年	1, 1 3 9	4 3	
		2021年	1, 3 3 4	3 9	
		2022年	1, 3 6 0	3 8	
		2023年	1, 0 8 1	3 5	
	5ヶ年平均		1, 2 7 7	3 9	
	2024年見通し		1, 1 0 0	3 5	
概要	愛知中心の入荷。出回りとしては多くはないが、上旬は入荷量が伸び、販売は苦しい見込み。中下旬からは数量も落ち着き、相場も安定する見込み。				
小 ぎ	実績	2019年	1, 1 3 0	1 9	
		2020年	1, 0 9 9	3 3	
		2021年	9 0 2	4 2	
		2022年	1, 0 7 8	2 4	
		2023年	1, 0 0 0	2 7	
	5ヶ年平均		1, 0 4 2	2 8	
	2024年見通し		1, 0 0 0	2 7	
概要	愛知、埼玉、沖縄からの入荷。入荷量はおおむね安定しそうだが、季咲品種が多いため色バランスに偏りがでて、色目での価格差がでる可能性がある。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2019年	9 1 3	4 1	
		2020年	9 1 8	4 0	
		2021年	7 7 6	5 3	
		2022年	8 3 6	4 9	
		2023年	8 6 5	5 4	
	5ヶ年平均		8 6 2	4 7	
	2024年見通し		8 5 0	5 0	
概要	愛知、長野産の入れ替わり時期となる。愛知産は若干早めの切り上りでスプレーは品薄になる見込み。長野産も1週間程度前進しており、上旬から中旬にかけ出荷が始まるため、切り替えは順調に推移する見込み。				
か す み	実績	2019年	1 0 4	8 2	
		2020年	1 1 1	7 6	
		2021年	1 0 1	1 1 0	
		2022年	1 0 8	1 0 7	
		2023年	1 1 6	9 8	
	5ヶ年平均		1 0 8	9 5	
	2024年見通し		1 2 0	9 5	
概要	上旬から長野、福島からの入荷が始まる。暖冬の影響から越冬株も多めに残り、まとまった入荷となる見込み。西南暖地の切り上りは早くなる見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2019年	290	124	
		2020年	305	104	
		2021年	249	146	
		2022年	251	155	
		2023年	241	148	
	5ヶ年平均		267	134	
	2024年見通し		240	140	
概要	<p>西南暖地は作付を減らしているが、球根の納品の遅れもあり、オランダ球根作型は上中旬にまとまる予想。新潟の南半球産は生育が進んでおり、上旬に多くなる見込み。</p>				
洋らん	実績	2019年	262	83	
		2020年	218	86	
		2021年	209	103	
		2022年	219	107	
		2023年	203	116	
	5ヶ年平均		222	98	
	2024年見通し		200	115	
概要	<p>鹿児島、愛知、静岡、輸入品が入荷する。オンシジウムは上位等級が増加するが、下位等級は大幅に減少する見込み。デンファレはアンナが減少し、ソニアが中心となり、量的に減少。シンピジウムは国産が終了し、輸入品のニュージーランド産が中心になる。カトレアは近郊産地中心で大幅に減少。コチョウランは輸入品中心に微増の見込み。</p>				
ばら	実績	2019年	677	47	
		2020年	628	48	
		2021年	680	56	
		2022年	834	56	
		2023年	773	61	
	5ヶ年平均		718	54	
	2024年見通し		780	60	
概要	<p>愛知、岐阜、三重産の他、高冷地産が入荷。ローズの日、父の日等イベントもあり、注文の入り方は堅調。入荷は例年並の予想。</p>				
枝も	実績	2018年	1,130	50	
		2019年	973	52	
		2020年	969	60	
		2021年	1,077	64	
		2022年	1,081	63	
	5ヶ年平均		1,046	58	
	2024年見通し		1,050	60	
概要	<p>梅雨時期、天候により山取り物の収穫は左右される。長野北信ブロックの草花類などは前進傾向が見込まれるが、花木類は順調な出荷が見込まれる。鳴子蘭だけは今年の夏の高温の影響で全体的に草丈は短めで数も少ない。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
アンズリウム	実績	2019年	18,131	916	
		2020年	23,252	975	
		2021年	19,615	967	
		2022年	22,192	975	
		2023年	25,502	949	
	5か年平均		21,738	958	
	2024年見通し		20,000	950	
概要	<p>入荷量は前年より大幅に減少か。出荷サイズは前年同様6号での出荷がメインになるが、最近は大いサイズの競売単価も厳しくなるため、サイズは小さくなる傾向にある。最近新しい品種や変わった色目も出てきているが、メインは赤・ピンクが主体になる。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（76.0%）、2位長崎（20.6%）、3位三重（1.3%）となっている。</p>				
ファレノプシス	実績	2019年	23,864	3,077	
		2020年	21,287	3,388	
		2021年	19,575	3,715	
		2022年	23,756	3,200	
		2023年	24,379	3,207	
	5か年平均		22,572	3,300	
	2024年見通し		24,300	3,292	
概要	<p>入荷量は前年並か。単価の伸び悩みが続き、円安の影響もあり生産量の減少が止まらない。選挙、株主総会等で大輪相場は比較的安定すると予想されるが、ミディーは母の日等の物日でも単価が上がらず6月も厳しい相場が見込まれる。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（58.7%）、2位宮崎（9.5%）、3位千葉（5.5%）となっている。</p>				
バラ及びミニバラ	実績	2019年	17,970	120	
		2020年	30,115	130	
		2021年	23,245	158	
		2022年	21,779	166	
		2023年	19,839	129	
	5か年平均		22,590	141	
	2024年見通し		19,800	126	
概要	<p>入荷量は前年並みか。上旬で中・大鉢の仕立てものは概ねなくなり、例年通り3号～4号サイズが出荷の中心になる見込み。梅雨入りのタイミングにもよるが、需要の落ち着きとともに単価も中値～安値安定になる見込み。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（54.2%）、2位愛知（26.6%）、3位愛媛（14.8%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイドランジア	実績	2019年	72,955	522	
		2020年	62,966	552	
		2021年	51,782	611	
		2022年	71,765	547	
		2023年	59,743	547	
	5か年平均		63,842	553	
	2024年見通し		58,000	517	
概要	<p>入荷量は前年よりわずかに減少か。出荷は玉咲きアジサイ中心で額アジサイは少ない傾向。近年は品種数も多くなり多品種での入荷が予想されるが、花持ちの良いマジカルシリーズの出荷は多い見込み。今後の気温次第だが、季咲き商品も例年より少く、後半はかなり少ないと見込まれる。7号以上の大きいサイズも少ない見込み。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(64.6%)、2位群馬(7.3%)、3位長野(5.7%)となっている。</p>				
スパティフィラム	実績	2019年	10,713	278	
		2020年	11,712	306	
		2021年	14,644	268	
		2022年	8,967	359	
		2023年	6,741	369	
	5か年平均		10,555	307	
	2024年見通し		6,500	350	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少か。前年同様に作付量の減少が要因。規格は4号・6号が中心になる見込み。価格は前年より厳しい見込み。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(47.5%)、2位三重(31.9%)、3位岐阜(14.2%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	2019年	20,206	760	
		2020年	24,881	888	
		2021年	22,752	948	
		2022年	28,088	1,286	
		2023年	18,126	1,550	
	5か年平均		22,811	1,086	
	2024年見通し		18,000	1,500	
概要	<p>入荷量は前年並か。輸入原木の高騰で生産者が購入を減らしており、大鉢は減少の見込み。品種では特にコンシンネの生産が減少しており、今後も品薄になる。全体では大鉢の相場が厳しいため、4号～8号までのサイズがメインになる。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(62.4%)、2位鹿児島(6.8%)、3位沖縄(6.7%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.612
2024年6月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434